

# ポラリスを仰ぐ北の大地から



## — 私のお薦めの三冊 —

千歳医師会 会長 佐藤 貢

最近読書離れの傾向が強く出版物の売り上げが低下し、街の本屋さんが減少している。主因はやはりインターネットの普及であろう。

ひと昔前の列車の車内は、漫画、週刊誌、新聞と何らかの読書をしながら車窓の風景を楽しんでいた。今では老若男女を問わず、スマートフォン、携帯メール、ゲーム等を楽しみ、読書している人はごく少数である。

ジャーナリストの立花隆氏は、現在のPC、スマートフォン等のデバイスは総合メディアであり、これらを駆使して知識を深めることは決して悪い現象ではないと評論している。ただし本を読むという行為には、知、情、志の三要素が含まれていて、より深い知識の習得により喜怒哀楽の感情をいただき、新たな自己決定や意識の形成に有効であると考えられる。

私は、15年前に診療所を有床から無床にして職員もダウンサイズした。それ故に仕事量も収入も減り、余った時間を読書に費やすことにした。

札幌や東京に出張のときは必ず本屋に寄り書棚を眺めることにしている。眺めるだけでも時代の社会状況や変化を分析して楽しむことができる。

フィクションよりもノンフィクションの本を選ぶことが多い。私の人生も残り少ないので、歴史的事実を確認したいのかもしれない。

書店との相性もあり、地下鉄大通駅近くの店に行くと欲しい本がたいていある。

平成26年のノンフィクション部門で私のベスト3を選んでみました。

1位、佐々木健一著『辞書になった男—ケンボ—先生と山田先生』辞書界の二大巨星の決別、情熱、友情の物語。

2位、長田渚左著『桜色の魂』東京オリンピックの華と謳われたチェコのチャスラフスカの栄光と反抗と失意と復活の物語。

3位、春日太一著『あかんやつら』東映京都撮影所の男たちの映画作りにかける熱い情熱の物語。

今年も面白い本に遭遇することを期待して本屋さんを放浪したい。



## 三師会アルコール旅行

恵庭市医師会 会長 島田 道朗

毎年、恵庭市医師会は、歯科医師会・薬剤師会と合同で、「三師会懇親会」を行っています。ボウリング、パークゴルフ、釣り、バーベキューなどいろいろ行いましたが、昨年はいよいよネタ切れと言ったところでした。幹事の私の意見が通り、『大人の日帰り旅行』と称して、余市ニッカウイスキー工場見学を企画しました。NHK朝の連続ドラマ「マッサン」の舞台です。ちょうどドラマ開始直前の時期でした。

九月の日曜早朝、大型観光バスに二十数名のメンバーが乗り込み、NIKKAWHISKY余市蒸溜所（正式名です）へと一路向かいます。工場内は、蒸溜棟、発酵棟、貯蔵庫など音声ガイド付きで自由に見学できます。ウイスキー博物館では、ウイスキーに関するいろいろな展示があるわけですが、各種・各年代モノを極安で試飲することもできます。ニッカ会館でも、無料で試飲でき、このころには赤い顔で出来上がっている先生も一人二人ではありません。

売店で工場オリジナルウイスキーを仕入れ、余市港沿いにある知る人ぞ知る燻製屋・南保留太郎商店に直行し酒の肴も調達したのでした。

小樽に戻り高級寿司店で昼食後、「北の誉酒造りミュージアム酒泉館」で、またまた酒蔵見学と日本酒の試飲です。ここまで来ると、ほぼ全員絶好調、ミュージアムオリジナルの酒を購入していました。

締めは、北海道ワイン「おたるワインギャラリー」見学です。スタッフからのワインうんちくの講義の後、本日最後の試飲会に臨みました。三時をまわっていたので、参加者全員お疲れモードです。バスの中で爆睡している先生も数人いました。五時頃、恵庭に到着し無事解散となりました。

今思うとかなりの珍道中ですが、同じただ酒を飲んだ仲間というか、妙な親近感が湧いたのは私だけではなかったようです。さあ、今年は何をするのか？ 今から頭を悩ませています。